

## 1 はじめに

### ★地域福祉保健計画とは

**地域福祉保健計画**は、誰もが身近な地域で安心して暮らせるまちをつくるため、地域の福祉保健を推進するための基本理念や課題を明らかにし、課題解決に向け、市民・事業者・行政が協働で取り組む計画で、社会福祉法第107条に基づきます。

横浜市には、市全体の計画である市地域福祉保健計画(=「**市計画**」)と、区ごとに策定する区地域福祉保健計画(=「**区計画**」)があります。また、地域福祉の推進を目指し、地域住民及び福祉保健等の関係団体や事業者等が主体的に地域で進めていく計画として、社会福祉協議会が策定する**地域福祉活動計画**とがあります。

それぞれの計画は、ともに地域の福祉を推進するための計画であり、相互に補完し、連携や役割分担を行っていくものです。そのため、地域にわかりやすい計画となるように策定のプロセスを共有し、整合性のとれた1つの計画として一体的に策定しています。それにより、行政や住民、地域福祉活動団体、ボランティア、事業所などの地域にかかわる方たちにとって、より協働しやすく、より実効性のある計画となることを目指しています。

横浜市では、「区計画」を進めるために必要な、計画の基本理念や方向性の提示など、市として行なうべき支援的事項を盛り込んだ「第1期横浜市地域福祉計画」を平成16年度に策定しました。

緑区は「市計画」を受け、「**みどりのわ・ささえ愛プラン**」を平成18年1月に策定しました。

### ★第1期計画策定までの経過

「みどりのわ・ささえ愛プラン」は、年をとっても、障がいがあっても、ひとりになっても、わたしたち一人ひとりが自分らしく、心豊かに充実した生活を送ることができるよう、区民、団体、事業者、社協、区役所が協働で、共に支えあうまちづくりを進めていくための計画です。

**第1期計画(平成18～22年度)**の策定にあたり、緑区では、平成16年度からの2か年間で、区内11連合自治会単位で3回ずつ開催した地区別意見交換会(延べ約1,200人参加)や分野別団体別インタビュー(31団体、延べ約420人参加)、区民アンケート(3,000人送付)を実施し、そこで出されたさまざまな意見を、「**つながり**」「**人材・担い手**」「**機会・場**」「**情報**」「**安心・安全・健康**」の5つのキーワードに分類し、各団体の代表者や公募委員、学識経験者で構成する策定委員会で検討を行いました。

その結果、計画の**基本理念**と、上記のキーワードを核とした**5つの基本目標**と**15の小目標**を設定し、第1期計画を策定しました。

## ★第1期計画の基本理念と基本目標

### 基本理念

「誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして」  
～一人ひとりが主役・共に支えあうまちづくり～

#### 基本目標 1

「一人ひとりの力」が発揮できるまちづくり

キーワード…つながり

- 小目標 ● 住民同士が顔見知りとなり、地域で支えあえる関係づくりをすすめます。

#### 基本目標 2

地域での「つながり」を大切にするまちづくり

キーワード…人材・担い手

- 小目標 ● 身近な地域でボランティアの仲介ができるようにします。  
● ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくりをすすめます。  
● 障がい児・者を支援するためのボランティアを育てていきます。  
● 思いやりのある人を育てる地域をつくります。

#### 基本目標 3

みんなが活動できる「機会・場」のあるまちづくり

キーワード…機会・場

- 小目標 ● 身近な「場」を有効活用できるようにします。  
● 同じような目的をもった人が集える機会や場を増やします。  
● 世代間のつながりがもてるような機会や場づくりをすすめます。

#### 基本目標 4

必要な「情報」が入手しやすいまちづくり

キーワード…情報

- 小目標 ● 困ったときに身近な地域での相談先がわかるようにします。  
● 福祉・保健に関する情報提供を、より積極的に行っていきます。  
● 誰もが情報を入手しやすい環境整備をすすめます。  
● 支援が必要な人の情報を地域単位で把握しやすくしていきます。

#### 基本目標 5

「安心・安全・健康」のまちづくり

キーワード…安心・安全・健康

- 小目標 ● 災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるよう取り組みます。  
● 誰もが安心して安全に出かけられるまちづくりをすすめます。  
● 誰もが心豊かで、より健やかに生活できるようにしていきます。

## 2 緑区の状況

### ポイント

- 緑区の人口は、176,404人(平成22年10月1日現在)。年々、増加率が減少しています。
- 高齢人口の割合(高齢化率)が増加し、年少人口の割合が減少していきます。
- 単独世帯の割合が増加しています。
- 地域では支援を必要としている方(要支援者)の割合が増えています。
- 地域における「人と人とのつながり」が求められています。

### ★緑区の人口・世帯数の推移

#### (1) 人口の推移(平成12年～平成22年)

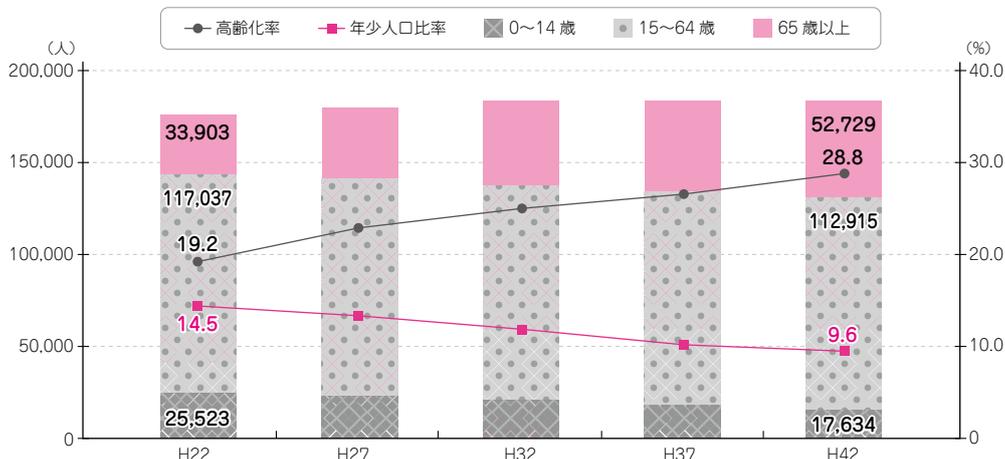
緑区の人口は、176,404人(平成22年10月1日現在)。年々、増加率が減少しています。



資料 横浜市推計人口 各年10月1日現在

#### (2) 人口(年齢3区分ごと)の将来推計(平成22年～平成42年)

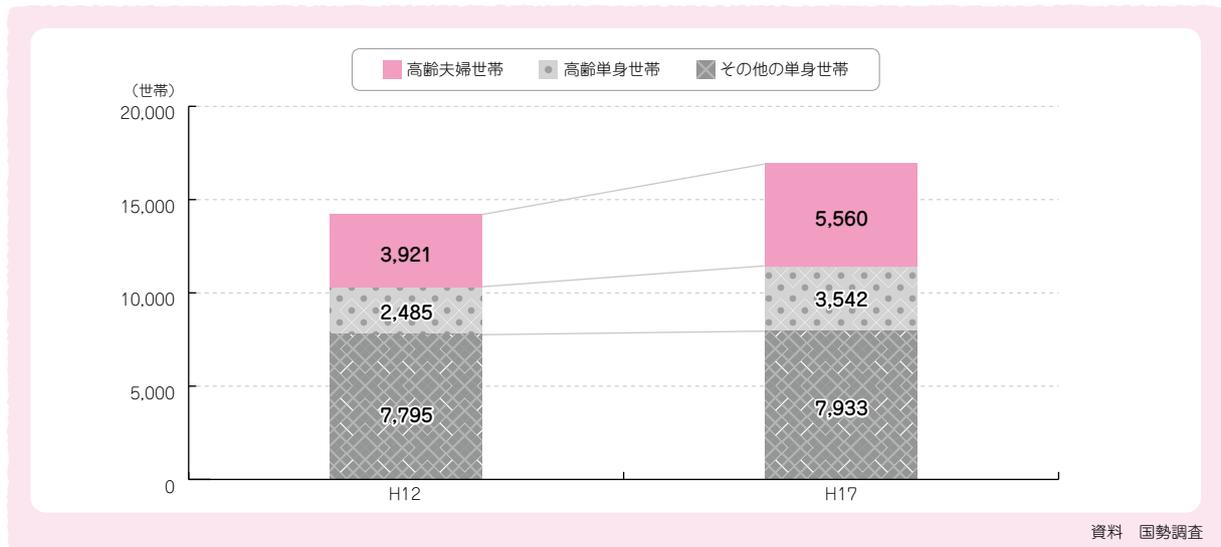
今後20年間(平成42年まで)の将来推計において、人口の総数はほぼ現状の値で推移しますが、高齢人口の割合(高齢化率)が増加し、年少人口の割合が減少していきます。



資料 横浜市将来人口推計 2005年(H17)基準

### (3) 単独世帯の増加

高齢夫婦世帯及び高齢単身世帯を含めた単独世帯が増加しています。



### ★地域に暮らす要支援者の増加

介護保険制度で要介護認定を受けている方、障がい者手帳を所持している方、生活保護を受けている方など、支援を必要とする方(要支援者)の割合が増えています。

#### <要介護認定者の推移>

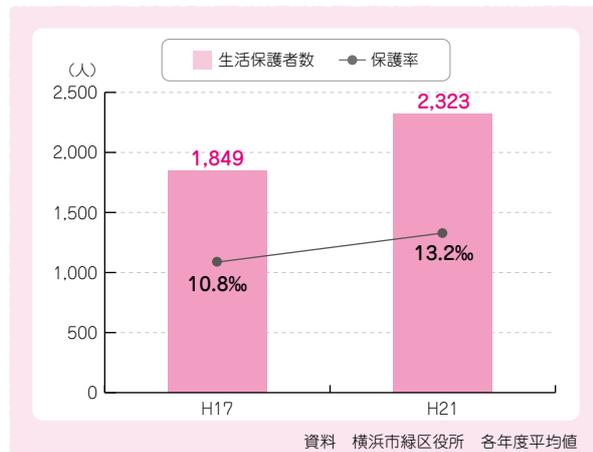


#### <障がい者手帳所持者数の推移>



身体:身体障害者手帳所持者数  
知的:知的障害者療育手帳(愛の手帳)所持者数  
精神:精神障害者保健福祉手帳所持者数

#### <生活保護者数の推移>



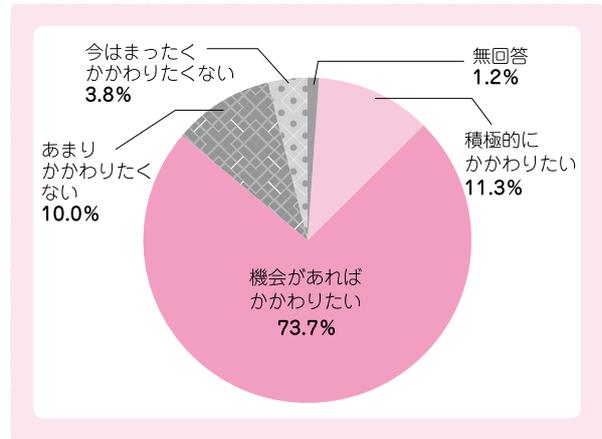
保護率:人口1,000人あたりの被保護人数  
% (パーミル) = 1,000分の1を1とする単位

## ★地域における「人と人とのつながり」

区民アンケートの結果からは、地域における「人と人とのつながり」が求められています。

### 「みどりのわ・ささえ愛プラン」 区民アンケート(H21)結果から

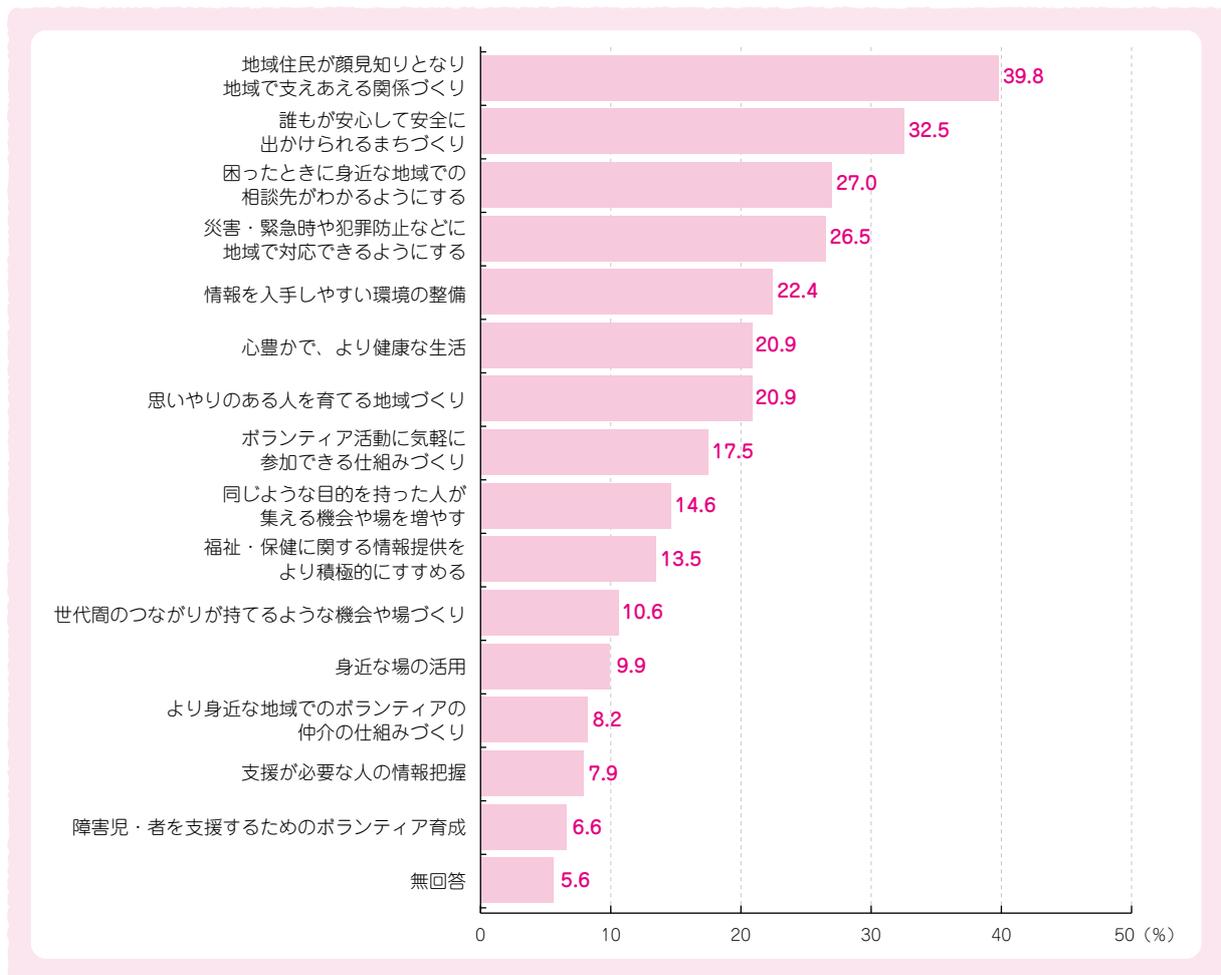
実施時期 平成21年10月～11月  
 調査対象 20歳以上の緑区民3,000人  
 調査結果 有効回答数1,013人  
 回収率 33.8%



**Q. あなたは今後、地域の方(子どもも含めて)とどの程度かかわりたいですか。(単独回答)**

**A.** 「積極的にかかわりたい」「機会があればかかわりたい」を合わせると、85%の方が地域の方とかわりたと思っています。

**Q. 第1期みどりのわ・ささえ愛プランの15の小目標の中で、今後、あなたが緑区の地域福祉を考えたときに、重点を置いて取り組む必要があると思われるものを上位3つまであげてください。(複数回答)**



**A.** 「地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり」(基本目標1「つながり」)が約4割と最も多く、次に「誰もが安心して安全にかけられるまちづくり」(基本目標5「安心・安全・健康」)が約3割となっています。

## 3 計画策定の経過

### ★第1期計画の振り返り

第1期計画に対する具体的な評価指標としては、計画期間中に行った以下の内容があります。

- ① 「地域での取組概況」の発行による取組事例の把握(平成18～21年度)
- ② 区内の福祉保健活動団体を対象とした団体アンケート調査を実施(平成20年度)
- ③ 区民3,000人を対象とした区民アンケート調査を実施(平成21年度)
- ④ 地区別計画策定委員会での地域での進捗状況の把握(平成21～22年度)
- ⑤ 「緑区福祉保健センター事業概要」の発行(毎年)

これらの資料をもとに、地域での取組状況について、「緑区地域福祉保健推進会議」や「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」等で定期的に振り返りを行いました。

「地域での取組概況」に挙げられた、基本目標毎に整理した取組事例をみると、地域毎に特徴があり、活動や内容にも**地域性**が表れていることが明らかになりました。

また、アンケート調査の結果等から、地域における「人と人とのつながり」が求められること、そのためにも「みどりのわ・ささえ愛プラン」を区民の皆さまにより一層、知っていただく必要があることがわかりました。

### ★第2期計画策定の経過

第2期計画の策定にあたっては、区計画の策定と、地区別計画の策定に向けた提言や進捗管理を行う「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」を中心に検討を行いました。

今回の計画は、第1期計画の振り返り評価を踏まえての「区計画」と、区内11地区の実情を踏まえて区民と協働で策定する「地区別計画」とで構成しています。

「区計画」では主に次の2点を確認しました。

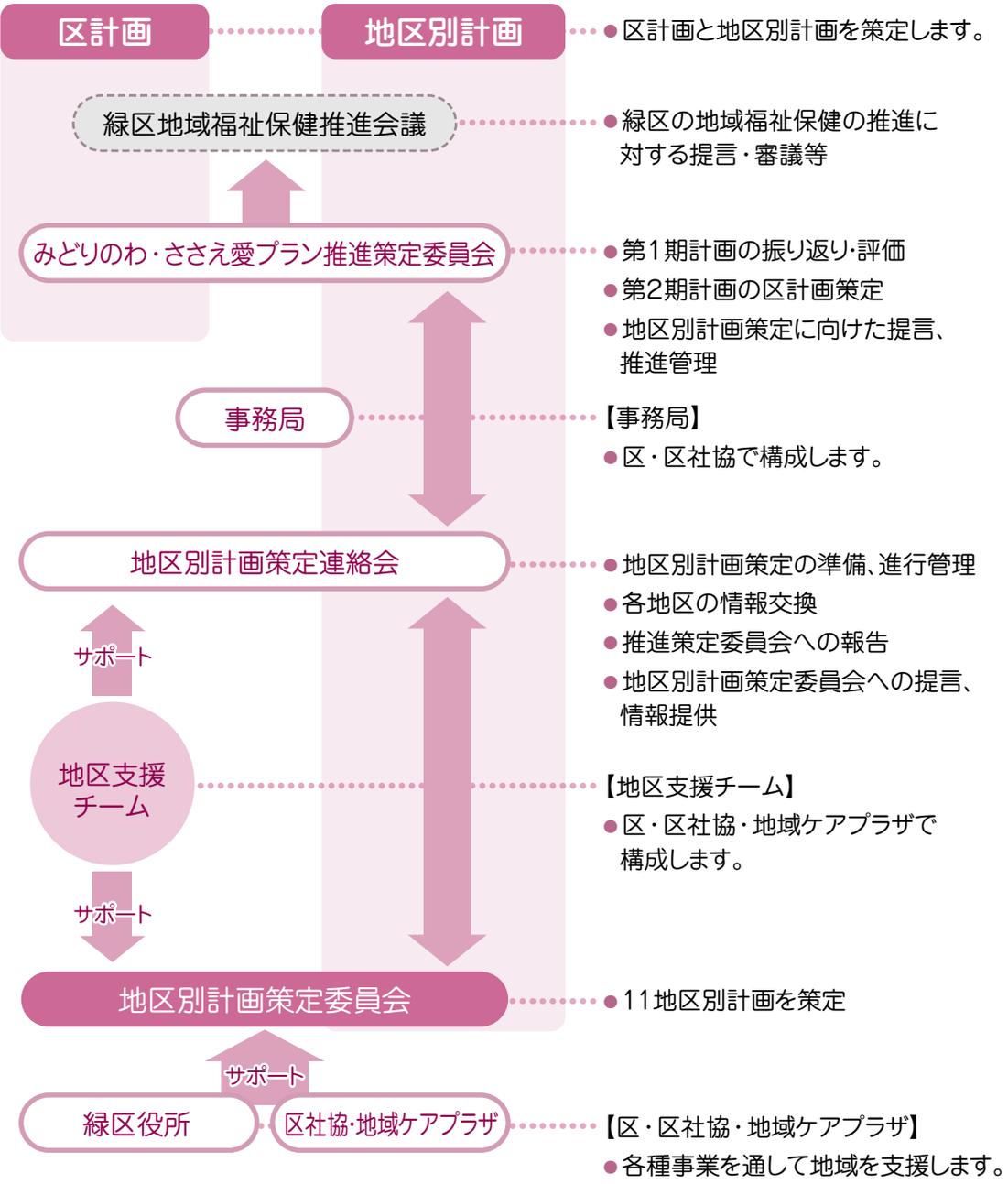
- ① 「基本目標1」で標榜している「つながり」を、第2期計画では、より具体的な実践に結び付けていくため、「基本理念」に追加しました。
- ② 「基本目標」は、一つ一つの地域課題を解決しながら緑区が目指していく方向性を示した目標であることから、今後も継承することとし、あわせて、第1期計画期間に行った推進委員会や地区別計画策定委員会での意見や、アンケート調査でのご意見等から導き出される、緑区の「目指す姿」を表現しました。

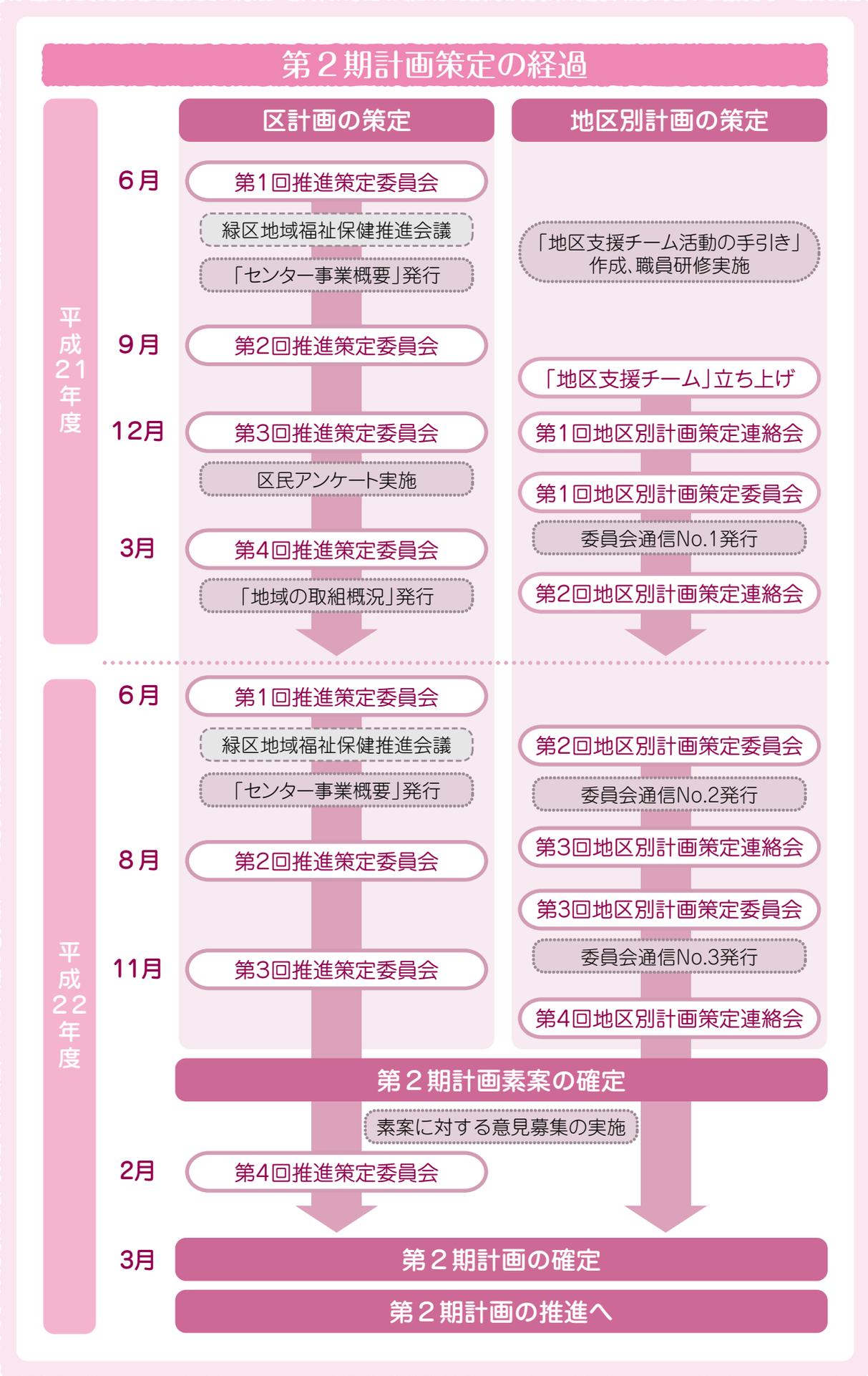
「地区別計画」は、区内11 連合自治会・地区社協を単位とした計画とし、各地域において組織された「地区別計画策定委員会」が中心となって策定を行いました。委員会には連合自治会や地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者等、延べ450人の方々が参加して、区内11地区で延32回の委員会を開催し、検討を重ねました。

また、区役所・区社協・地域ケアプラザの各職員(約100人)で構成する「地区支援チーム」が、委員会の設立準備から、情報交換・集約、地区の福祉保健に関する課題の抽出及び課題の解決に向けた検討等、委員会への支援を行いました。

各委員会での検討内容については、「地区別計画策定委員会通信」を毎回発行し、各地区での班回覧、及び緑区ホームページへの掲載という形で、広く区民の皆さまへの周知を行いました。

## 第2期計画策定の組織体制





## 4 第2期計画の特徴

### ★「地区別計画」の推進

平成22年1月から10月にかけて、区内の11連合自治会・地区社協単位で「地区別計画策定委員会」を、延べ32回開催し、各地区の特徴を活かした緑区で初めてとなる「地区別計画」を策定しました。

委員会を構成したのは、各地区の自治会や地区社協の関係者をはじめ、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者等、延べ450人の方々です。

「地区別計画」は、平成23年度からの5か年間に行う、それぞれの地区の特徴をふまえた各種の目標と、地域課題の解決のための具体的な取組とをまとめています。

### ★「区計画」の推進

地区を超えた、区域で取り組む目標として、第1期計画で定めた**5つの基本目標を継承**し、新たに緑区の「**目指す姿**」を設定しました。

また、これらの「目指す姿」を実現するための「**キーワード**」を抽出し、地域や区役所、区社協及び地域ケアプラザが目標実現に向けて行う各種事業・取組に対する方向性を提示しています。区域での地域課題の解決に向け、区役所、区社協及び地域ケアプラザは地域と共に、さまざまな取組を行います。

今回の目標毎に行う「**具体的な取組**」の検討にあたっては、子ども達が描いた10年後の緑区の姿「**夢みどり50プラン**」等も参考にしました。

第2期計画は、地域の皆さまを中心に、関係機関が協働で推進します。

